

2015年(平成27年)

1月16日

金曜日

朝日新聞

#1/2

中国下請けで違法労働

月300時間 ユニクロ、是正へ

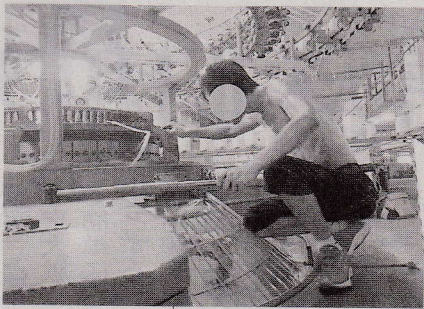
衣料品大手ユニクロを展開するファーストリテイリングは15日、中国の二つの下請け工場で、月あたり約300時間の違法な長時間労働が行われていたことが分かり、うち一つの工場では

生産計画を見直す」と発表した。潜入調査をした香港の労働団体「SACOM」が公表した指摘を一部認めた。手ごろな価格の源泉である中国での「負の側面」が明らかになった。

違法な長時間労働が明らかになったのは、中国広東省にある生地工場と縫製工場の2カ所。昨年7～11月の月あたりの平均的な労働時間は、両工場とも300時間前後に及んだ。時間外労働はともに100時間を超え、上限の月36時間を大幅に上回っていた。

ファストリは違法性を認め、労働時間を減らせるよう、縫製工場での生産計画を見直す。ユニクロは「調査中」としている。SACOMは、製品に問題があった場合に、従業員から違法な罰金を取る制度が両工場にあったと指摘。罰金の額は50～500人民元(約1千～1万円)という。ファストリは「従業員にそのような受け止められ

る事例があった」として調べる。(北川慧一)



中国広東省にあるファーストリテイリングの下請け工場で働く労働者(SACOMが顔の部分を修整のうえ提供)

は生産計画を見直す」と発表した。潜入調査をした香港の労働団体「SACOM」が公表した指摘を一部認めた。手ごろな価格の源泉である中国での「負の側面」が明らかになった。